

大草谷津田生きものの里 自然観察会

かっこいいぞ！オニヤンマ

山下美佐子（東金市）

日 時：2015年8月2日（日） 10時30分～12時 天気：晴れ

参加者：19名（大人12名・小人7名）指導員：4名

担当指導員：木下順次 山下美佐子

高温注意報が連日続き、参加者は少ないかな？と危惧していましたが、常連の虫好き親子の参加をはじめ、19名の参加者がありホッとしました。

まず、自然が豊かな場所にはたくさんの種類のトンボが生まれて育つことを伝え、それぞれのトンボは、自然環境ごとに棲み分けをしていて、オニヤンマは湧水がある薄暗い



水路に棲むと話しました。観察会の注意として、捕まえた生き物はよく観察して、もといたところへ戻すこと、スズメバチ、マムシ、ケムシなどの注意後、観察会開始です。林の中へ入ると涼しく感じます。温度計のメモリを観たら、陽当りは36°C、林の中は31°C。天然のエアコン効果はすばらしい。林の中では、オオアオイトンボ、ハグロトンボ、ノシメトンボなどが見られ、トンボの種類をみんなで調べたり、オスメスの区別を見分けたりしました。明るい田んぼに出ると、シオカラトンボ、木陰にオオシオカラトンボやナツアカネが観られるようになり、いよいよトンボ採り本番です。トンボは複眼で上下、左右周りを見て虫を捕えるので、後ろから捕まえること、捕まえてよく観る時は、チョキで羽を持つことなどを実際に捕まえて説明。子どもたちは次々にシオカラトンボやオオシオカラトンボを捕まえてにっこり。ハンノキ林の前あたりまで行くと、パトロールしているオニヤンマを発見。前もって捕まえていたオニヤンマで、宝石のような眼は六角形のレンズの集まりであることや、気門で息をしていることなどを観察。オンブバッタを口に持っていたら大きな鬼のような口でムシャムシャと食べてしまったのは、びっくり。オニヤンマは虫を食べて生きているんだね、と納得。オニヤンマの羽化殻も発見。オニヤンマは日本で一番大きなトンボで湧水の出る水路で3年～4年もヤゴで過ごすことを話して、水路でヤゴが見つかることもと、みんなで水路の土の中に手を付けてみたら、水の冷たいこと。残念ながらオニヤンマのヤゴは見つからなかつたけれど、たくさんの中のサワガニの赤ちゃんを捕まえ、水路沿いにはオケラ、アズマヒキガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ等の幼体もたくさん見つけ出し、みんな大喜びでした。

参加者は、木陰の湧水で涼を感じ、またそこにはたくさんの生き物が観られ、大草がたくさんの種類の生き物の里であることを実感したようでした。